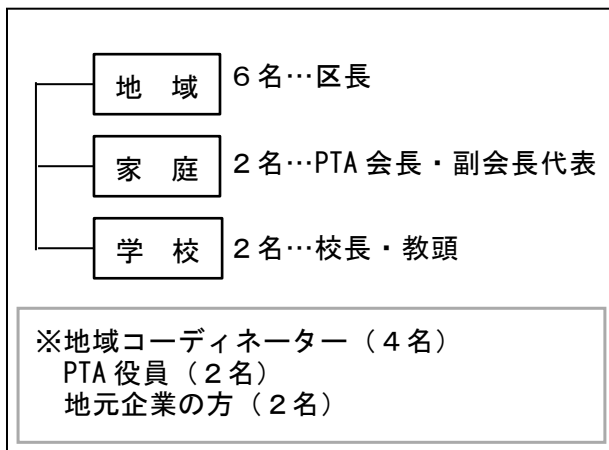


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- ・第1回（7月5日）  
趣旨説明、活動計画および学校経営について協議
- ・第2回（11月15日）  
「オープンスクール」参観および1学期学校評価について
- ・第3回（3月6日）  
1年間の取組に対する学校関係者評価と次年度への提言

### (3) 協議会における成果と課題

- ・見守り隊の減少に対して、区長・PTA・学校が協力して募集活動を行い、見守り隊の人数を増やし、活動を活性化することができた。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- ・総合的な学習の時間を中心とした学習を計画的に行い、自主的に自分の夢について興味関心を持ち、調べたいという意欲を喚起させる。
- ・地域の方々にふるさと企業のすばらしさを詳しく教えて頂くことで、ふるさとについての愛着を深め、ふるさとを大切にしたいという気持ちを持たせる。
- ・学習のまとめを発表する場を持つことで、児童に創意工夫をこらして発表し合う喜びを体験させる。

### (2) 活動の実際

#### ①「ふるさと敦賀のよさを知り、発信しよう」（5年生）

4月：敦賀のよさをみつけ、伝えるための学習計画を立てた。

5月：ふるさと敦賀の食べ物について調べ学習を行った。

7月：奥井海生堂より講師を招き、昆布について学んだ。

9月：敦賀昆布商工業組合より講師を招き、おぼろ昆布かき体験を行った。

9月：敦賀市立博物館より講師を招き、北前船と昆布についての関係を学んだ。

10月～12月：教えていただいたことをもとに、昆布についてさらに深く調べ、資料作りを行った。

1月：永大産業より講師を招き、敦賀の自然と産業について学んだ。

1月：オープンスクールで4年生や保護者に向けてふるさと敦賀の特産品である「昆布について」の発表を行った。



②「未来の自分、未来の敦賀にLock on」の取り組み（6年生）

4月：夢について学習することを伝え、学習計画を立てた。

5月：保護者の方の職業を調べ、様々な職種を学んだ。

6月：4校（敦賀高等学校、敦賀工業高等学校、敦賀気比高等学校、武生高等学校）の高校生との交流から、各高等学校の特色やその高校を選んだ理由などを聞き、夢についてアドバイスを受け自分の進路について考えた。

9月：京都大学にて留学生と交流し、働くことや職業についての視野を広げた。

11月：オープンスクールにて「未来の自分にLock on」として、5年生や保護者の方に自分の夢や働くことについて発表した。

11月：福井村田製作所、東洋紡敦賀事業所の方から製作の工夫や働くことの喜びについての講演を聞き、製品を手に取り、生活への活用について体験をした。

1月：新敦賀駅、深山トンネルの工事を見学し、「未来の敦賀」をイメージし、強度の発展を考えた。

2月：まとめとして、資料作りとスピーチを行った。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・活動の企画段階で助言をいただき、講師選定や交渉、まとめの段階での助言などをいただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・見学などの記録写真はもちろん、話し合いの記録メモを写真にして保存したり、ある班の話し合いメモをテレビに映して全体で共有したりするなど、iPadなどのICT機器を有効に使うことで学習に取り組ませた。
- ・昆布や北前船について学ぶために、企業や博物館の方から直接お話を伺い、職人の苦労や工夫への理解を深めるために、実際に職人の方を招いておぼろ昆布かき体験をした。
- ・近い将来の自分の姿を想像し、未来の自分を見つめるために、年齢が近い大人であり夢を追いかけている真っ只中である高校生と交流することにした。中でも、現在の6年生が1年生だったときに6年生として本校に通っていた卒業生（現高校2年生）との交流を企画した。
- ・未来の自分を見つめるための視野を広げる目的で、修学旅行で京都大学の留学生との交流を図り、日本の教育水準の高さや自国の発展のために学ぼうとする留学生の姿を学んだ。

(5) 成果と課題

- ・昆布や北前船について企業の方や博物館の方にお話を伺ったことや、実際におぼろ昆布かき体験をしたことは児童が昆布について学ぶ上でとても有効であった。
- ・高校生や留学生との交流から、学ぶことの意義や夢をかなえるための努力の方法など、自分のこととして考えることができた。
- ・敦賀のよさを、市役所の方、企業の方など様々な視点から学ぶことができ、ふるさとに誇りを持って学ぶことができた。
- ・発信することの大変さと楽しさ、また情報発信の影響力を感じられた。
- ・自分で調べるだけでなく、具体的に体験したり直接お話を伺ったりすることによって、具体的に自分の夢を考えることができた。

(様式 3)